事業の背景・目的

日本海に浮かぶ天売島は、ウミガラスなど100万羽の海鳥が繁殖し国定公園や国指定鳥獣保護区に指定される海鳥の楽園であるが、近年は周辺環境の悪化などにより海鳥の個体数の減少が見られている。今後の海鳥保全のためには、羽幌地域の森里川海といった自然環境全体の保全を進めていく必要がある。また自然環境と関わりが深い地域産業と協働を図り「海鳥をとりまく自然環境の保全」と「羽幌地域の産業振興」の両立を進めることが重要である。これらの活動を生物多様性地域連携保全活動として実施していくため、「地域連携保全活動計画（案）」を作成するための事業を実施し、成果を反映させていく。

事業の内容

①地域連携保全活動計画（案）の作成

「羽幌町の環境を守る基本計画」の重点プロジェクトである「海鳥をとりまく自然環境の保全」と「羽幌地域の産業振興」の両立の、具体的な取組であるシーバードフレンドリー（以下、「SBF」という。）認証制度について、地域連携保全活動として実施するため、地域連携保全活動計画（案）を作成した。

②シーバードフレンドリー認証制度事業

新たに2つの団体（特別栽培米の販売とCRMによる地域への再還元、生産者・地域と取り組むCSVの実践）を認証し、各所イベントにてSBFの取組紹介パネルの掲示や認証団体の商品PR、販売等の啓発を実施した。また、事業者向け説明会を実施し制度に対する認知度拡大に努めた。

③「生物多様性の見える化」のための自然環境調査事業

農薬などを削減した特別栽培米の圃場周辺で「生物多様性の見える化」を行うため、鳥類利用実態調査、圃場周辺生息魚類インベントリ調査等の自然環境調査を実施した。得られた結果をSBFの基準作りや自然環境に優しい手法で作られた商品の販売促進の一助とする。なお、調査の一部は地元高校らと協力し実施した。

④自然環境と地域産業のつながり啓発事業

羽幌の地域産業や自然とのつながりについて地域住民に知ってもらうことを目的とした「どっちも大切！羽幌の自然と地域産業」イベントを実施し、理解を深めた。また、天売島の森林再生課題について、広く町民に理解してもらうとともに島でできることを考えるシンポジウムを開催した。シンポジウムで出た意見をもとに次年度以降の活動につなげていく。

得られた成果

地域連携保全活動計画（案）については、羽幌町の環境を守る基本計画の重点プロジェクトである「SBF認証制度の運用」の具体的な取組として位置づけ作成した。

SBF認証制度については、新たに2つの事例を認証したが、認証検討等の過程のなかで、海鳥をとりまく自然環境の課題等の理解が深まった。また、認証制度自体を普及啓発することで、天売島の海鳥をとりまく自然環境の保全と、地域産業の振興により羽幌の地域活性化にもつながることなど、徐々に町民へも理解が浸透してきた。

「生物多様性の見える化」事業については、地元高校らと連携する中で実施することにより、羽幌地域の環境保全の気持ちや郷土に関心を持つ若い世代の意識向上に寄与することができた。なお、地元高校とはパートナーシップ協定を締結しており、環境保全活動等の連携がより強化されていると考える。

自然環境と地域産業のつながり啓発事業については、地域産業の関係者から環境に配慮した取組等の話を聞いたりすることで自然環境と地域産業どのようにつながっているかの理解を深めることができた。また、天売島の森林再生について様々な意見を出し合うことで次年度以降の活動につなげることができた。

将来的には、作成した地域連携保全活動計画に基づく活動が展開され、SBF認証制度が広く普及し、事務局を行うNPOを立ち上げるなど、同制度の運営を行う体制を構築するほか、同NPOが海鳥調査や普及啓発など「海鳥を取り巻く自然環境の保全に関するトータルコーディネイト」を行う団体となることで取組の継続を目指す。